

### 知っておきたい 緑内障の話

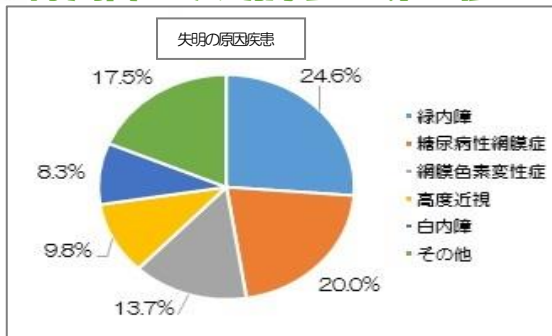


#### ◎ 緑内障はどんな病気？

緑内障とは、徐々に視野が狭くなる病気で、古くから眼圧が上昇することで視神経が傷つけられる病気として理解されてきました。しかし、日本では眼圧が正常な「正常眼圧緑内障」が多く発症し、必ずしも眼圧上昇だけが原因ではないことが分かっています。これは、視神経の血液循環不良、遺伝や免疫、酸化ストレスなどの様々な原因のために、通常では緑内障を起こさない程度の眼圧でも視神経に障害を起こすのではないかとされています。

自覚症状としては、視力の低下、見える範囲(視野)が狭くなる、見えない場所(暗点)が出現する症状が一般的ですが、日常生活は両目で見ていること、病気の進行が緩やかなため、初期は気付かないことが多く、たまたま眼科を受診して発見される場合も多い疾患です。

#### ◎ 緑内障は失明原因の第1位です



\*2005年度 厚生労働省難治性疾患克服研究事業  
網膜脈絡膜・視神経萎縮症に関する調査研究より

厚生労働省研究班の調査によると、日本における失明原因の第1位は、以前は糖尿病性網膜症でしたが、近年、緑内障が第1位となっています。また、日本緑内障学会で実施した調査によると、40歳以上では20人に1人の割合で緑内障の患者がいることがわかりました。(有病率5.0%)しかし、発見された患者のうち、それまで緑内障と診断されていたのは、全体の1割にすぎず、残りの9割は緑内障だけが気付かずに生活していた人でした。

#### ◎ 緑内障は早期発見・早期治療が大事です

近年の緑内障の診断や治療の進歩は目覚しく、以前のように「緑内障=失明」という概念は古くなってきています。しかし、一度傷ついてしまった視神経は回復することはありません。早期発見・治療することで失明に至る危険は少なくなります。「見え方が今までと違う。ぼやけて見える部分がある。最近、視力が落ちてきた。」と思ったら、眼科を受診しましょう。



#### \*緑内障よもやま話\*



ヒポクラテス  
(医学の祖)

緑内障(Glaucoma)の由来は、ギリシャ語の「青っぽい緑色」という意味で、古代ギリシャの医学の祖ヒポクラテスが「目が地中海の海の色のように青くなり、やがて失明状態になる。」と記述しており、約2千年にわたり、失明に繋がる病気の総称として使われてきました。19世紀初頭から眼圧が高くなる疾患という考えが広まってきました。